

エスカレーターでの転倒を防止するために  
東京駅でプロジェクター等を活用した注意喚起の実証実験を実施します

- JR 東日本では、エスカレーターをご利用のお客さまに、エスカレーター「みんなで手すりにつかまろう」キャンペーンを実施するなど、お客さまの事故防止に努めてまいりました。このたび東京駅において、エスカレーターでの転倒を防止するための対策として、プロジェクター等を活用し注意を促す情報をより見やすく・わかりやすくすることや、エスカレーターに乗る際のステップ部の視認性向上を目指した実証実験を実施します。
- この実験では、エスカレーター脇の壁面や手すりに動画や静止画の投影を行ったり、エスカレーターに乗る際のステップ部を識別しやすくするためのステッカーによる注意喚起を実施します。
- 実験期間中に、モニターによる注意喚起効果の検証を行います。

### 1. 実施期間

2017年7月21日(金)～2018年1月上旬まで(予定)

### 2. 実施箇所

東京駅

- 丸の内地下北口側 総武線地下ホーム(地下1階から地下4階) エスカレーター 3基
- 丸の内地下中央口側 総武線地下ホーム(地下1階から地下4階) エスカレーター 2基

### 3. 実施概要

エスカレーターでのお客さまの転倒防止に向けて、以下の方法で注意喚起を実施していきます。(別紙1, 2参照)

- (1) プロジェクターを活用した注意喚起 : エスカレーター脇の壁面、手すり、柱
- (2) サイネージを活用した注意喚起 : 乗り口脇に設置
- (3) ステッカーによる注意喚起 : 乗り口(ランディングプレート)、ステップ部に貼付

注意喚起表示装置(1),(2)の開発および効果の検証については、JR 東日本研究開発センターフロンティアサービス研究所が実施します。

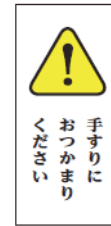
【別紙 1】

■ プロジェクターを活用した柱への注意喚起のイメージ



(写真①) エスカレーター下の柱に設置したスクリーンでは、「手すりにおつかまりください」などの文字や注意を促す静止画を投影し、注意喚起を行います。

【柱スクリーンに映し出されるデザイン案】



■ プロジェクターを活用した手すりベルトへの注意喚起とサイネージを活用した注意喚起



(写真②) エスカレーター乗り場手前に設置したサイネージでは、文字や静止画で注意を促します。

(写真③) 裏面に設置したプロジェクターでは、手すりベルトに「手すりにおつかまりください」の文字やイラストを投影し、注意を促します。

【手すりベルトに映し出される文字やイラストのデザイン案】

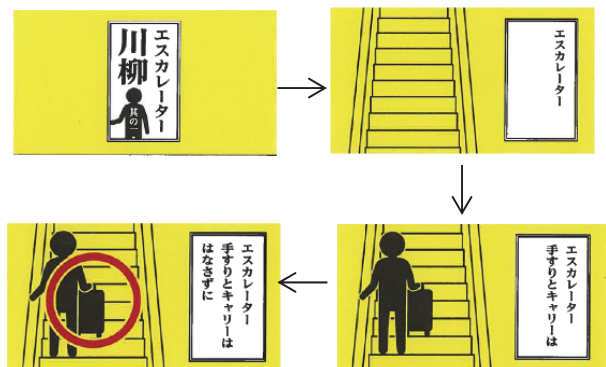


■ プロジェクターを活用した壁面への注意喚起のイメージ

(写真④) エスカレーター脇の壁面に設置したスクリーンでは、「エスカレーターに乗る際はキャリーバックから手をはなすと危険であること」など4コマ漫画による注意喚起を行います。



【壁面の注意喚起4コマ漫画のデザイン案】



【別紙2】

■ステップ部・ランディングプレートにステッカーによる注意喚起のイメージ

(写真⑤) 複数の色彩のステッカーを使い、ステップ部分をわかりやすくします。

(写真⑥) ランディングプレート部分には、下記ピクトを使いエスカレーターに乗る前に注意を促します。



【ステップ部とランディングプレートのデザイン案】



- 【実施箇所】 (1) 東京駅丸の内地下北口側総武線地下ホーム エスカレーター3基…①～④を実施  
 (2) 東京駅丸の内地下中央口側総武線地下ホーム エスカレーター2基…⑤、⑥を実施

